

第2回自動車業務委員会開催！

今後の取り組みに向け意思統一！

12月19日、JR四国労組は「第2回自動車業務委員会」を開催した。自動車支部においては支部大会・分会大会を終了し、新たな役員体制を構築したことから、業務委員会のメンバーもこれを踏まえ再構築し、スタートした。

議事では経過として、「自動車支部第39回定期大会」「総合労働協約改訂交渉」「JR連合自動車連絡会第30回総会」「2022年度中間決算にかかる経営協議会」「2022年年末賞与交渉」について報告した。総合労働協約改訂交渉において、勝ち取った制度改善について、取り扱い方に関する質疑がなされ、互いに理解を深め合った。さらに、年末賞与の結果についても各分会における組合員の受け止め等を意見交換。組合員の期待感が高まる一方、会社の経営状況が十分伝わっておらず、足もとの需要回復と査定期間にズレがあることなどが課題として挙げられ、要求水準にはまだ届いていないものの、赤字決算の中でも組合員の日頃の努力を訴え、積み上げた結果の回答であることをあらためて共有した。



続いて、議題として、支部大会・分会大会での発言を振り返り、すでに対応できた内容を報告したうえで、会社に求めていくべき点などを討議した。また、組織の強化・拡大にむけては、支部・分会の取り組みについて情報共有を図り、今後の活動を活性化することを確認し合った。すでに周知している交運共済のこくみん共済coopへの契約移転についても、年明け以降の手続きをスムーズに進められるよう、疑問点を持ち寄り議論した。最後に、2023春季生活闘争で要求すべき項目についても話し合い、2月の本部定期委員会を経て提出する要求書の作成に向けて各分会に持ち帰ることとした。

以上